

第23回世界神経学会議開会式 秋篠宮殿下 お言葉 (和文仮訳)

平成 29 年 9 月 17 日

このたび、「第 23 回世界神経学会議」が、ここ京都の地において 115 を超える国と地域から 8000 名を超える参加者を迎えて開催され、皆様とともに開会式に出席できることを大変嬉しく思います。

今回の会議では「日本から明日の神経学を神経疾患の克服をめざして」というテーマのもと、神経学に関する様々な発表や議論が行われることは、大変意義深いことと考えます。

神経学は、私たちの体のすべての機能を司る脳と神経系、そして筋肉の疾患を対象としていることから、非常に多くの種類の疾患が存在いたします。そして、パーキンソン病、ALS を始めとする神経変性疾患や、クロイツフェルト・ヤコブ病に代表されるプリオൺ病など、その多くが難治性の疾患です。とくに、社会全体が高齢化している現在、認知症の問題は深刻と言えましょう。全世界で 4600 万人もの人々が罹患し、WHO や本会議の母体である世界神経学連合 World Federation of Neurology:WFN)を中心として、世界中が連携してその対策を進めていると伺っております。

1931 年に第 1 回の会議が開催されてから今日に至るまで、神経学と神経疾患の診療は大きな発展を遂げました。しかるに、新たな治療法開発が待たれいる疾患と障害も多数あります。本会議が、一日も早く多くの神経疾患と筋疾患の克服に寄与されることを願っております。

おわりに、この会議が皆さんにとって実り多いものになるとともに、世界神経学連合ならびに各国の神経学会が一層発展されることを祈念し、私の挨拶といたします。